

原発事故被災者相双の会

「ふる里を返せ」の声を大きく相双の会結成

原発事故から一年が過ぎ、

私たち被災者は生活の先が見えなく不安のどん底におかれ、このままでは駄目だ。大きく輪を広げ、手を組むことが必要と「原発事故被災者「相双の会」を結成することにしました。

避難区域の見直し再編の方向へと進んでいる。この

ままでは街がズタズタに切断され、絆どころか線引きによりお互いの違いで争いができ、一致団結した賠償要求までが分断され、賠償そのものを低下させようと疑わざるをえない。ところが国（原子力賠償審査会）はさらに小字単位で再編すると言っているのです。

私たちは三月十一日以前の「ふる里を返せ」「生活を返せ」「家族を返せ」です。

先祖伝来の田畑等々全てを失った。これはお金に換えられないです。

お盆、彼岸でも墓参りにも行けない。身内の方が亡くなっても納骨が出来ない。この現実を国、東電はどう見ているでしょうか？

放射能は東電のものです。



放射能がなくなるまで私たちの子々孫々まで賠償するのが当然のことであり、させなければならぬ。

二度と福島のような苦しみを国民にさせてはならない。そのための正義の要求です。



好きで避難しているんじゃない。

原発事故は全てを崩壊し、家族、地域の絆も断ち切り補償、賠償もないまま身の安全を守るため避難生活が余儀なくされる。そして家族まで深い亀裂を生じる。

県外へ避難する人が増え続き（特に若い人）このままでは福島県の人口が激減してしまい将来が不安視されます。

子どもたちが安心して生活できるような環境にしなければならぬでしょう。

原発事故は一瞬にして未来の無い暗闇になることが明白となった。この現実がまた何時どこで起こるか分かりません。この狭い日本に五十四基もの原発をつくってしまったのですから、

福島は悲劇を繰り返さないために、原発被害者が今こそ立ち上がらなければならぬ。

納得できない被災者への対応

原発事故はまだまだ収束しておらず、放射性物資は放出されっぱなしです。言うまでもなく放射性物資は何の臭いもなく流れ込んできて何の色もついていません。事故直後は多くの方が恐ろしく思っていたが、最近では薄らいできているように思われる。口先だけの復興はもう聞き飽きた。被災者の立場に立った考えではなく、東電側に立つ野田政権、ヨルダン、ベトナム、韓国、ロシアの4ヶ国と原発輸出できる原子力協定を今国会で承認させました。福島の実状を知らずから原発輸出を実行する無神経に驚くばかりだ。

